

安寧

兵庫縣姫路護國神社報
「安寧」創刊号

発行所 兵庫縣 姫路護國神社
〒750-0033 姫路市本町一八
電話 〇七九-二三四-〇八九六
安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと



巻頭言

「国柄」

兵庫縣姫路護國神社

宮司 泉 和 慶



建国の昔(いにしえ)より東海の美しい大八島の国、日本列島は、様々な外圧に遭遇し、融合しながら独自の文化を育み、国家の独立を保ってまいりました。

しかしこの独立は当然にしてあったものではありません。様々な苦難があり、いくつもの戦いを乗り越えてきました。世界の大きなうねりの中で必死にこの国を守り支えて、矛を取り第一線に赴いたつわものがいきました。命を懸けて国を守り郷土を守り家を守り、近代日本の礎となった方々の功をたたえ、霊をなくさぬ国の安泰を祈るにもっともふさわしいところが、靖國神社であり全国五十二社の護國神社であります。

近代国家の夜明けであった明治維新を成し遂げ、他国の植民地化を防いだ数多くの若者たち、姫路の地でも坂本竜馬や高杉晋作のように同時代に国の将来を憂いた河合宗兵衛命、江坂栄次郎命、河合傳十郎命等維新の志士達を慰霊することから護國神社の祭祀は、はじまりました。

明治天皇様が天神地祇にお誓いになった五箇条の御誓文以来すでに百四十年を経過しましたが、今の時代に至るまで数々の戦役事変がありました。その戦役に赴いた英霊なくしては私達の存在はあり得ないのです。

私たちの生きている同じ時代を横のつながりと考えるなら、過去と未来はたてのつながりといえます。神社はたてのつながりを感じるところであります。わたしたちは先人のなしとげられた偉業の過去の上に立っています。そして未来は私たちの上にあります。ご戦没者の思いがいま私たちの心の中にあるように、私たちの命が絶えてもその思いは残ります。いまご先祖を大切にしなければ、未来の人たちに私たちのところがわかってもらえない気がいたします。これが伝統であります。日本の伝統にのっとったお祭りの仕方でご戦没者のおみたまをお慰めす

ることに躊躇はいらないと考えます。祭祀がこの地で始まってより百十七年目を迎えました。公に生きた人々をどのよう顕彰していくか、さまざまな局面でお国に殉じた先達を常に忘れず生きていくことが、その国柄を守るすべであると思います。

さて待望の崇敬奉賛会は平成二十年の御創祀百十五年御鎮座七十年記念大祭に計画を立案し、記事にございますように本年四月二十六日にたくさんの方々のご尽力で結成されました。三宅知行会長様、釜谷研三副会長様を始め遺族会、各種団体の方々や個人に役員をお受け頂きました。崇敬奉賛会は護國神社に奉賛をしていただくことのほかに、正しい歴史認識や日本の伝統文化を次世代へ引き継ぐための方策も行うことが目的のひとつでもあります。各種の講演会や、講座を計画しています。ふるってご参加下さい。

靖國神社や護國神社に対するご意見は多種様々ですが、皆様方とともに私どもはひたすら御祭神の鎮魂と世界の平和を祈り続けてまいりたいと存じます。

「祝辞」



姫路護國神社総代会会長

岩谷英雄

姫路護國神社社会報誌の発刊に際し、総代会を代表してお祝いのご挨拶を申し上げます。平素は、姫路護國神社が何かとお世話になり、心より感謝申し上げます。

昨年三月、姫路護國神社総代会に於いて、当神社崇敬奉賛会の設立承認の決議がされて以来、設立準備委員会を設置し、検付されてまいりました。お陰をもちまして、本年四月二十六日に崇敬奉賛会の発会の運びとなりました次第でございます。

ここに至るまで、準備委員会皆様方はじめ、ご関係の皆様方には、大変お世話になり敬意を表しますと共に、衷心より厚く御礼を申し上げます。

当護國神社は、播州但馬地区出身の、戦没者の英霊を奉祀させて頂いている神社であります。先の大東亜戦争終決後、当護國神社総代会(遺族会)が中心になり、十年毎に当護國神社の整備に着手してまいりましたが、まず最初に、御遺族皆様方の心の拠り所として護國會館を建

設、さらに、神社本殿の大屋根を初め、社務所の屋根葺替え工事等、最近では、戦没者遺族会皆様方を初め、多くの皆様方にご利用頂くための護國會館の改修工事、休憩所などの整備をしてまいりました。

この荘厳な神社をこのように立派に維持することが出来ましたのも、ひとえに戦没者遺家族皆様はじめ、多くの皆様方のご協力ご支援があったることと心より感謝申し上げます次第でございます。

この度、崇敬奉賛会の発足にあたり、多くの皆様方にも護國神社を、改めて御理解頂き開かれた身近な神社として、戦没者遺家族皆様はじめ多くの国民皆様方にも、御参拝頂ける神社としての、再出発点であります。

どうぞ、多くの皆様方に奉賛会員にご加入頂きますようお願いを申し上げます。

今後にわたりまして、姫路護國神社をお守りするために、崇敬奉賛会

と姫路護國神社総代会が、共に手を携え推進して参る所存でございます。未来永劫、姫路護國神社の尚一層の発展と、崇敬奉賛会の活発なる御活動を、ご祈念を申し上げます。お祝いのご挨拶と致します。



崇敬奉賛会発会式特集

(平成二十二年四月二十六日)

崇敬奉賛会会長

三宅知行様ご挨拶



崇敬奉賛会設立の発会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

兵庫縣姫路護國神社は、兵庫県の奉賛によって創祀されてから今日に至りますまで百十五年の歴史の中で、幾多の戦争により貴い命を国に捧げられた 五万六千九百八十八

柱の「英霊(みたま)」がお祀りされており、国の安泰と国民の安寧のため、悠久の平和を祈願する神社といたしまして県民の皆様の厚い崇敬を受けてまいりました。

また、戦後六十五年を経た今日、これまで神社を支えてこられましたご遺族、戦友の方々のご高齢になられ参拝される方がだんだんと少なくなつてまいりました。

加えまして、戦後世代の人たちは戦没者の英霊に対します崇敬の意識が次第に希薄になつてきており、散華された英霊の御心に対する気持ちのあり方には憂慮すべき状況であります。

いま、私たちが英霊に対します感謝と報恩の誠を捧げることが重要なことであると思われまふし、英霊の御遺徳を子々孫々まで変わることに顕彰し、伝えていくことが今の世

に生きております私たちの使命であると痛感させられます。

更に、現在の世相にも現れておりますように、精神の荒廃や不安定な心の状態などに対しましては、英霊の克己・献身の事蹟や、あるいは、その精神のあり方などを思いいたすことにより、命の尊厳を認識し、父祖の世代への感謝の心を醸成し、我が国の伝統的な道義や道徳心を取り戻す教育的な役割をも果たすことであると確信いたすところであります。

兵庫縣姫路護國神社の総代会におかれましては、神社創祀百十五年を機に「崇敬奉賛会」の設立を計画され、準備会を重ねてこられました。役員の方々の厚い思いに賛同された有志が本日ここに集われ、この使命の遂行のためにここに崇敬奉賛会が設立されました。

つきましては、ご遺族の方々をはじめ崇敬されます方々はもとより、日本の将来を担う壮・青年層の方々に至るまで幅広くご賛同を募り、この奉賛会を展開してまいりたいと思っておりますので、皆さま方のご協力をお願い申しあげまして、簡単措辞であります。ご挨拶とさせていただきます。

崇敬奉賛会副会長

釜谷研造様ご挨拶



兵庫縣議員
釜谷 研造

崇敬奉賛会の誕生を祝つて

この度、兵庫縣護國神社に崇敬奉賛会が、目出度く誕生されましたことを心からお慶び申し上げます。

ご承知の様に、戦後わが国は驚異的な発達を遂げ、世界の先進国入りを果たしました。

これは、化学技術の長足の進歩や経済の飛躍的な発展に負うものが大ですが、よく考えますと、そこ迄築いてきた土台があつたからなのです。

その土台とは何か、これこそわが国を守り、有史以来一度も外国の進攻を受けることなく、平和を維持して頂いた先人のお陰であることを、今一度思いおこさねばなりません。特に諸外国との戦争で生命を捧げられた先輩こそは、国家の英雄として尊び、今この世に生を受けている我々は、そのご道徳を偲び、これを子々

孫々に伝える使命がございます。

更には、これら英霊が、国家国民の為、自分を犠牲にして戦われたそのお気持ち、今、社会的な課題である遺徳や道義心の欠除に最も求められているものではないでしょうか。

こんな素晴らしい先人の英霊をお祀りしている護国神社を、守り継ぐ使命をもった崇敬奉賛会が、この度講師として、国家の防衛に心血を注いでおられる“田母神俊夫”先生をお招きして、講演会を開催されますことは、誠に時宜を得た素晴らしいものと思っております。

これを契機に当会が更に発展します様、ご関係の皆様方のご多幸ご活躍を心からお祈り致してご挨拶いたします。

発会奉告祭

発会式当日は幸いにも天候にも恵まれ、受付の役員様も早朝より晴れやかに、和やかに。

ご参列の皆様も予定時刻にはお揃いになり、参列者御一同様を拝殿へ



ご案内。

準備も整い祭典司会者より開式のご挨拶。

ご奉仕くださる神官のお迎えには主要な役員

があたり、続いて

て主要な役員が拝殿へ入場。雅楽が演奏される中、全ての神官、役員、参列者が着座され、宮司の祝詞が始まる。

一同は心を鎮め御英霊に感謝の誠を捧げ、拝礼。

おごそかな中にも、新しいものが生まれる喜び、晴れやかに崇敬奉賛会発会の奉告祭が斎行される。

式典は滞

りなく斎行され、参列

者一同緊張の中にもこ

の神社の歴史の一ペー

ジに立ち会えたことに

感慨も一入でした。



斎行できたことに感謝のご挨拶。

「つい先日まで桜の花に憩う観光客で賑わった姫路城、またその周辺の景色も今はまた静けさを深め、季節の移ろいを肌で感じる。

境内の樹木は新緑に映え、すぐ北隣の世界文化遺産姫路城も装いを新たにしている。あとしばらくすると姫路城の天守閣も工事用のカバーが掛けられるはず。名城もしばらくは見学用のエレベーターから拝観とか。

神社の南にある「イーグレ」から神社を展望すると、こんもりとした森の中に兵庫縣姫路護國神社が鎮まっています。その背景には姫路城があり、日本一良い場所・環境にご英霊を御祀りしている幸せを感謝せずにはおられない」

天候にも恵まれていたので、予定通り境内で記念撮影。

参列者は、まだ緊張が解けないのか硬い表情。そこで宮司の一声「皆さん、今日はめでたい日です、にこやかに笑顔の写真を撮りましょう」

この後、発会式(初回の総会)会場である、大会議室へ移動。

宮司より、関係者の皆様のご努力により崇敬奉賛会発会奉告祭も無事



発会式

発会式は、第一部を崇敬奉賛会発会の初回総会、第二部を直会とする。発会式会場の正面には国旗、その上側には「崇敬奉賛会発会式」の立



派な横断幕。総合司会者・三木英一 運営副委員長の発会

式全般の開会宣言。

以後発会式終了まで司会及び仮議長担当。

国歌斉唱の後、総会議題に入る。

(以下、各界代表者のご挨拶などありましたが、紙面の都合上、ご挨拶の内容は割愛させていただきます。)



「開会のことば」は岸野 弘運営委員。準備委員長から運営委員長となり、ますます責務が加わります。

「開会のご挨拶」は、まず泉 宮司。

笑顔を決やさず、柔らかい口調で「これまでご苦労いただいた皆様にお礼の言葉と、今後は、これまでに力をいただいた皆様とともに、崇敬奉賛会の皆様にも、お力をいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。」

続いて、総代会会長・岩谷英雄様の開会の挨拶。

「崇敬奉賛会と総代会（遺族会）が共に手を携えましょう。崇敬奉賛会のご発展をお祈り申し上げます。」



続いて、御来賓より代表して兵庫県神社庁・藤原正克庁長よりお

祝いのことばがありました。

これより、議題の始まり。総合司会者より崇敬奉賛会役員予定者の紹介があり、三宅知行崇敬奉賛会会長以下全役員が満場一致で承認される。

新しく選ばれた三宅知行会長が、初回の崇敬奉賛会総会の議長に就かれ、就任ご挨拶及びお祝いのご挨拶。



(前掲) 議長指名により、総会第一号議案・「趣意

書、ならびに崇敬奉賛会会則案」を安藤 守運営委員が提案。

続いて、第二号議案「事業計画案」、

第三号議案



「会計予算案」を谷川永久運営委員が提案。

その後、一括して提案内容について質疑応答。異議なく満場一致で、すべての提案に対し承認を受け、総会を終了する。

閉会のご挨拶を崇敬奉賛会副会長・釜谷研造様より受ける。

「すべての議案が整い、崇敬奉賛会が正式に発足いたしました。会員の皆様には、会則の趣意をご理解いただきご協力をお願いいたします」

直会



直会の準備が整うのを待って、司会を田中 常生運営委

員にお願いする。終始和やかな話しぶりで明るい雰囲気がかがでる。

「座席はあらかじめ決めさせていただきました。不都合があったかもしれませんが、お許しください」

先ずは乾杯のご発声を寺田祐三様



を祈り、併せて崇敬者の皆様には今後お力添えをお願いいたします」

にお願いする。
「崇敬奉賛会のますますのご発展



ご歓談いただく中、あちこちで旧知のお方は座席を移りご挨拶、また初対面の方も打ち解けて「今後ともよろしく」

歓談が続く中、めでたく終了の時刻となり、中締めのご挨拶を総代会



責任役員・大住計規様より受ける。



「崇敬奉賛会の皆様共に姫路護國神社を盛りたてましょう」



閉会は、総代会責任役員・沖村一範様より

力強い発声で万歳三唱。お開きとなる。

崇敬奉賛会役員のご紹介(敬称略・順不同)

崇敬奉賛会会長

三宅 知行

崇敬奉賛会副会長

岩谷 英雄

崇敬奉賛会副会長

釜谷 研造

(常任理事)

小西 高男、寺田 祐三

岩成 孝、福本 正明

中木村 章、本田 眞一郎

阿比野 剛、岡田 兼明

黒田 直樹、木南 一志

前川 英昭、松本 敏郎

天田 博子、沖村 一範

大住 計規、南光 正和

岸野 弘、三木 英一

岡田 徹也、谷川 永久

(監事)

山本 峰之、岡本 勝弘

(理事以下は割愛させていただきます)

主な年間行事

一月十日 奉賛会新年祈願祭

二月十一日 建国祭

四月中旬 崇敬奉賛会総会

五月二日 春季例大祭

八月十五日 英靈感謝祭

十一月二日 秋季例大祭

編集後記

姫路護國神社事務局の中に編集委員会を設け、「入会のしおり」、「社報」の作成など行いました。

先ず、社報として創刊号というのは特別な意味を持ち、内容の検討には時間を掛けましたが、今回は、「崇敬奉賛会発足」を主題と決め、寄稿文などお願いしました。

「産みの苦労」は勿論ありましたが、これが今後の活動で活かされる。

社報の名前「安寧(あんねい)」は、護國神社として、ふさわしいと自負しています。

※編集委員の紹介

三木英一、谷川永久、田中常生、

前川英昭、

(谷川永久)

日誌抄 二十一年七月、二十二年六月

平成二十一年

- 七月 五日 波賀町慰靈祭
- 七月 二十日 天皇陛下(即位二十年記念大会西山記念館)
- 七月 二十二日 近畿護國神社会(京都)
- 八月 三日 陸上自衛隊青ノ原駐屯地祈願祭
- 八月 十五日 英靈感謝祭
- 八月 三十日 小野市慰靈祭
- 九月 二日 スローフード協会正式参拝境内夜店
- 九月 六日 美酔クラブ正式参拝
- 九月 七日 兵庫県神社庁神社関係者大会(淡路)
- 九月 八日 佐用町中安遺族会慰靈祭
- 九月 二十日 生田神社奉祝祭
- 九月 二十六日 庄内神社総代会正式参拝 再会の旅正式参拝
- 九月 二十九日 神河町慰靈祭
- 十月 七日 佐用徳久慰靈祭
- 十月 十六日 広島護國百四十年祭参列
- 十月 十九日 靖國神社百四十年祭参列
- 十月 二十七日 手柄山慰靈祭・地区総代会理事会・常任理事会
- 十月 二十九日 奉賛会設立準備会
- 十月 三十日 千種町慰靈祭
- 十一月 一日 城崎町遺族会慰靈祭
- 十一月 二日 秋季大祭
- 十一月 十七日 奈良県護國神社総代参拝
- 十一月 二十六日 大麻頒布式
- 十二月 七日 宮司民事調停委員表彰を受ける
- 十二月 九日 新穀感謝祭(伊勢神宮)
- 十二月 十四日 名譽宮司旧職員お祝い会
- 十二月 二十三日 天長節にあたり正式参拝 清掃奉仕一〇〇名
- 十二月 三十一日 大祓式・除夜祭

平成二十二年

- 一月 一日 歳旦祭
- 一月 十四日 古札焼納
- 一月 十五日 奉賛会会長依頼
- 一月 二十八日 姫路工業高校インターシップ
- 二月 十日 奉賛会運営委員会
- 二月 十一日 建国祭
- 二月 十六日 佐用幕山遺族会参拝
- 二月 二十一日 八千代町慰靈祭
- 三月 一日 赤穂商工会議所奉賛会役員依頼出向
- 三月 三日 全国護國神社会出向
- 三月 十一日 奉賛会運営委員会
- 三月 十六日 佐用西庄慰靈祭・日本会議役員会
- 三月 三十一日 賀堂流碑祭
- 三月 二十六日 神社総代会
- 三月 二十九日 加東市慰靈祭
- 四月 一日 崇敬奉賛会運営委員会
- 四月 二十六日 崇敬奉賛会発会式
- 五月 二日 春季大祭
- 五月 九日 憲友会正式参拝
- 五月 二十二日 皇居奉仕祈願祭
- 五月 二十五日 神河町慰靈祭
- 五月 二十六日 神社本庁評議員会
- 六月 十四日 佐用石井地区慰靈祭
- 六月 二十二日 神社監査会
- 六月 二十六日 霊友会清掃奉仕五十名 日本会議講演会四十名
- 六月 二十八日 神社総代会
- 六月 三十日 大祓式



独立総合研究所
青山繁晴氏 御参拝 平成22年7月5日

青山繁晴氏が、市内での講演のため来姫の際、当社にお立ち寄りになり、ご令室と共に正式参拝されました。旧姫路藩のご先祖を持つ青山氏は、姫路藩の武士達も合祀されている当社に思いを寄せていらっしゃいました。



白鷺宮の新しき試みに寄せて

株式会社 独立総合研究所(独研)

代表取締役社長・兼・首席研究員

近畿大学経済学部客員教授(国際関係論)

青山 繁晴



白鷺宮の名を冠した美しいたすまいの姫路護國神社において、崇敬奉賛会が立ち上がり、会報の第一号が発刊されますことを、魂よりお祝い申しあげます。

わたしは中高の時代を淳心学院にて学びました。淳心学院は、護國神社と同じく白鷺城下にあり、わたしは学校の帰り道に神社の前をよく通りました。しかし、ただの一度も、その鳥居をくぐったことはなかったのです。

この夏の始まりに、姫路経営者協会のお招きで、つたない講演をいたしました際に、泉和慶宮司のお許りによって正式参拝をさせていただき、おかげさまで初めて、鳥居をくぐりました。

中高生の頃のわたしは、護國神社の鳥居の横に立つ石の柱を眼にするたび、「護國とは何だろう」と考えました。その石柱(社号標)に刻まれた「兵庫縣姫路護國神社」の文字のほかに、「護國」という言葉に一度も接することがなかったからです。当時ティーンエイジャーのわたしであっても、先の大戦で戦った英霊のことを指すのであろうとは、おぼろげに思いました。しかし、わたしたちがその護國の英霊によってこそ今、生かされていることまでは、考えが及ばなかったのです。

そこに、わたしなりに意識が届くようになったのは、仕事で海外を歩くようになってからでした。たとえばアメリカの首都ワシントンDC郊外のアーリントン国立墓地をゆっくり歩けば、国家国民によって葬られているのは、アメリカが勝者となった先の大戦の戦死者だけではありません。敗者となり、いまだ戦争批判の強いベトナム戦争での戦死者もまったく同じく、深い敬意とともに葬られています。

ではなぜ、日本の靖國神社は、敗れたからといって私的存在になり、戦死者は国家国民の負担によって吊られることがなくなつたのでしょうか。わたしたちが敗戦後の教育で、護國という言葉を一度も聞くことなく、英霊の果たされた尊い役割を教えることもないことと、それはずっしり重なり合っています。

姫路護國神社が崇敬奉賛会を立ち上げられ会報もこうして発刊されることは、若い世代にフェアな歴史教育をおこなう新しい挑戦という意味でも貴重な試みであると信じます。(了)

美しき白鷺宮の結婚式



白鷺宮 参集殿

ご親族のみでのご会食から
ご披露宴(～60名様)まで
専任プランナーが当日まで
サポートいたします



【婚礼受付相談室】 TEL. 079-224-0559

受付時間 10:00～17:00(火曜定休)

E-mail. info@shirasaginomiya.com

無料相談会開催中*予約制

※詳しくは婚礼専用HPにて <http://www.shirasaginomiya.com/>